

**製品名: サイトケラチン 18 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab09737**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000,IP 1:20-1:50
分子量	47kDa

**抗原情報**

遺伝子名	KRT18
別名	KRT18; CYK18; PIG46; Keratin; type I cytoskeletal 18; Cell proliferation-inducing gene 46 protein; Cytokeratin-18; CK-18; Keratin-18; K18
遺伝子 ID	3875.0
SwissProt ID	P05783
免疫原	抗血清はヒトケラチン 18 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 1-50

**背景**

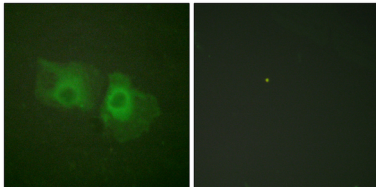
KRT18 は、I 型中間径フィラメント鎖ケラチン 18 をコードします。ケラチン 18 は、そのフィラメントパートナーであるケラチン 8

とともに、中間径フィラメント遺伝子ファミリーの中で最も一般的に見られるメンバーです。これらは、体内の単層上皮組織で発現します。この遺伝子の変異は、特発性肝硬変と関連付けられています。この遺伝子には、同じタンパク質をコードする2つの転写バリエーションがみつかっています。[RefSeq 提供、2008年7月]、疾患：KRT18の欠陥は、特発性肝硬変の原因です[MIM:215600]。機能：肝細胞によるトロンピン-アンチトロンピン複合体の取り込みに関与します（類似性による）。リン酸化されると、フィラメントの再構成に関与します。変異 CFTR の細胞膜への送達に関与します。KRT8とともに、インターロイキン-6 (IL-6) を介したバリア保護に関与しています。誘導：IL-6によって誘導されます。その他：細胞骨格ケラチンとマイクロフィブリルケラチンには、I（酸性、40~55 kDa）とII（中性~塩基性、56~70 kDa）の2種類があります。PTM：複数の部位でO-グリコシル化されており、グリカンは単一のN-アセチルグルコサミン残基で構成されています。PTM：有糸分裂中にSer-34のリン酸化が増加。病的な肝硬変肝ではSer-53が過剰リン酸化されます。リン酸化はIL-6によって増加します。PTM：上皮細胞のアポトーシス中にカスパーゼによってタンパク質分解的に切断されます。切断はカスパーゼ3、カスパーゼ6、またはカスパーゼ7のいずれかによってAsp-238で起こる。類似性：中間径フィラメントファミリーに属する。サブユニット：2つのI型ケラチンと2つのII型ケラチンからなるヘテロ四量体。ケラチン18はケラチン8と会合する。トロンピン-アンチトロンピン複合体と相互作用する（類似性による）。PNN、HCVコアタンパク質、および変異CFTRと相互作用する。リン酸化されている場合のみ、YWHAЕ、YWHAH、およびYWHAZと相互作用する。DNAJB6、TCHP、およびTRADDと相互作用する。組織特異性：結腸、胎盤、肝臓で発現し、子宮頸管ではごく弱く発現する。乳癌のリンパ節で発現増加が観察される。

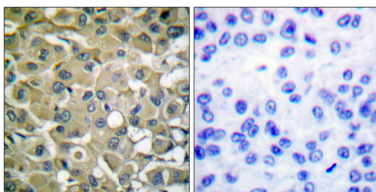
## 研究分野

病原性大腸菌感染症

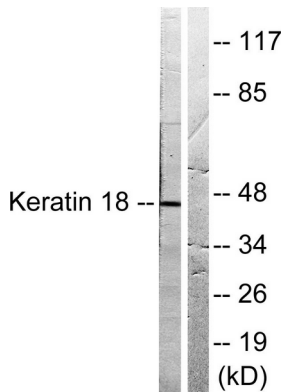
## 画像データ



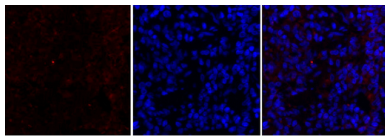
ケラチン18抗体を用いたHeLa細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



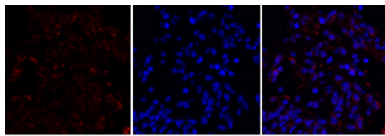
ケラチン18抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



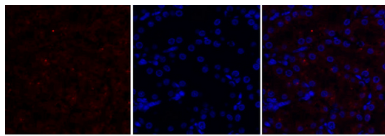
UV 5'処理した HeLa 細胞ライセートのケラチン 18 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



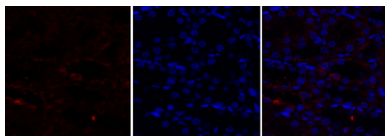
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, サイトケラチン 18 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 写真 B: DAPI (青) 10 分。写真 A: ターゲット。写真 B: DAPI。写真 C: A+B の合成。



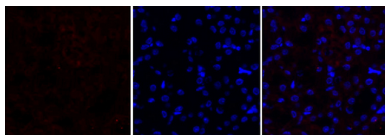
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, サイトケラチン 18 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 写真 B: DAPI (青) 10 分。写真 A: ターゲット。写真 B: DAPI。写真 C: A+B の合成。



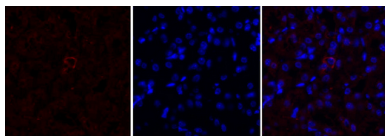
ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, サイトケラチン 18 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 写真 B: DAPI (青) 10 分。写真 A: 標的。写真 B: DAPI。写真 C: A+B の融合。



ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, サイトケラチン 18 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 写真 B: DAPI (青) 10 分。写真 A: 標的。写真 B: DAPI。写真 C: A+B の融合。



マウス腎臓組織の免疫蛍光染色。1, サイトケラチン 18 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 写真 B: DAPI (青) 10 分。写真 A: ターゲット。写真 B: DAPI。写真 C: A+B の合成。



マウス腎臓組織の免疫蛍光染色。1, サイトケラチン 18 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 写真 B: DAPI (青) 10 分。写真 A: ターゲット。写真 B: DAPI。写真 C: A+B の合成。